

### 高齢者の交通事故と免許証返納

**問** 高齢者の交通事故の状況と免許証返納の取組や課題について伺いたい。

**答** 本年7月末現在の高齢者関係の交通事故は、発生件数、死者数ともに前年同期比で減少しています。が、全事故に占める割合は37.7%、全死者に占める割合は42.9%と高くなっています。交通事故の未然防止の観点から、高齢者の方が自主返納制度を利用されることは大変好ましいことですが、一方で返納後の交通手段の確保が課題であり、自治体や関係機関に対してコミュニティバス利用時の運賃助成等の実施を働きかけているところです。

### 健康づくりフレイルチェックの活用

**問** フレイルチェックを健康づくり運動の入り口に取り入れることで、さらに参加者の意欲が向上し、効果を客観的に把握できて、よりよい結果が期待できるのではないかと。

**答** 本県では平成28年度から29年度にかけて紀の川市とかつらぎ町がフレイルチェックの実証事業を実施しており、現在はデータの集計や分析を行い、実用化に向けて検証を行っているところと聞いています。県としては国のガイドラインについて情報収集に努めるとともに、このフレイルチェックに関する事業、国等の動向を見守っていきます。

**フレイル**  
年をとって心身の活力が低下した状態を「フレイル」といい、多くの人が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態に陥ると考えられている。健康のためにフレイルの状態をチェックすることが現在注目されている。

### 海外への観光の情報発信

**問** 国では観光立国を目指して、2030年までに外国人観光客を6000万人という目標を設定しているが、県では海外に向けた情報発信戦略をどうしていくのか。

**答** 欧米豪市場に対して、観光客の関心度が高い高野山・熊野が持つ日本の歴史や精神文化を中心に、テレビ、雑誌、ウェブサイトなどのメディアを通じて継続的な情報発信を行っています。これらの取組を通じ、世界的な旅行ガイドブックで高評価を獲得しました。また、アジア市場に対しては、四季や絶景、温泉、食など人気の高い観光資源のメディア露出のほか、SNSを活用した情報発信を行っています。引き続き、同様の取組を継続的に実施するとともに「水の国、わかやま」キャンペーンや「サイクリング王国わかやま」など、旬の観光素材を提供していきます。



高野山根本大塔

### 非常時における想定外の事案への対処

**問** 近年は毎年のように和歌山県国民保護計画が改定されているが、現在の県庁組織は計画に書かれていない想定外の事案に対処できる体制にあるのか。

**答** 平成23年の紀伊半島大水害に発生しました。国、県、関係機関で構成する対策本部をまず招集し、一丸となって迅速にやってきましたが、今後も、いついかなる想定外の危機事案が発生するかわかりませんので、そういう時には対策本部を中心に県庁全体で頑張り、県民の力も結集して全力で適時、的確に対処して、県民の命と財産を守っていきます。

### 里親制度の取組状況

**問** 里親制度について平成24年度に質問したが、その後の取組状況はどうなっているか。

**答** 県では里親制度を推進するため、平成24年度に里親支援機関を紀北地域に設置し、制度の普及啓発や里親への訪問相談を行っています。昨年度は紀南地域に2カ所目を開設し、さらなる普及に取り組んでいます。今後、児童委員研修会における周知依頼や市町村の広報紙の活用など、新たな人材確保についての働きかけを行い、里親登録が増加するよう積極的に取り組んでいきます。

**里親制度**  
さまざまな事情により家庭での養育が困難または受けられなくなった子供たちを、温かい愛情と正しい理解を持った家庭環境のもとで養育する制度

### 小学校における英語等の必修化

**問** 新学習指導要領では小学校において英語等が必修化されたが、子供達の多くが理解して習得できるポリリウムなのか。また、小学校の先生方には英語の発音が苦手な人が多いのではないかと。

**答** 小学校英語教育については、3・4年生での外国語活動を通じて、英語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを行った上で高学年からの教科につなげており、児童の発達の段階に応じた内容になっていると考えます。発音については、来年度から使用するデジタル教材の効果的な活用方法を示し、児童が自然な英語の発音に触れて学習できるように指導していきます。



### 和歌山県大学生等進学給付金

**問** 大学生等進学給付金についての申込状況とその選考方法はどうなっているのか。

**答** この給付金は、貧困対策及び少子化対策の一環として、大学卒業後、県内へUターンすることを要件に、年間60万円、4年間総額240万円を給付します。40人の定数枠で募集しており、昨年度は64人、今年度は62人の申込があり、高校の成績に加え、面接及び小論文を実施し、選考します。県議会及び県が強く要望していた国の給付型奨学金が創設され、来年度から本格実施されることになりました。県としては、支援を必要とする子供が必要な給付を受けられるよう進めていきます。

### 和歌山市駅前地区の再開発事業

**問** 南海電鉄和歌山市駅前地区の再開発事業の目的は何か。また、進捗状況はどうか。

**答** 和歌山市駅前整備については、多様な都市機能の集約による賑わいの創出や、駅前広場の再整備と利便性の向上を目的に、魅力ある拠点として再生していくこととしています。本年4月から既存施設の除却工事が始まり、平成31年度末には建築工事を終える予定で、各施設は、和歌山県福祉のまちづくり条例に基づいてバリアフリー化される計画となっています。



和歌山市駅前再開発イメージ図 (南海電気鉄道株式会社提供)

### 児童養護施設の役割

**問** 深刻な虐待を受けた児童を支援するために県内の児童養護施設が果たしてきた役割は極めて大きいと、県は児童養護施設の役割をどう考え、何を求めていくのか。

**答** 児童養護施設は、虐待等様々な事情で家庭で暮らすことのできない児童を、公的な責任のもとで親身になって養育する施設です。心理士などの専門性を持つ職員が配置され、高度かつ専門的な手厚いケアを集中的に提供できることから、今後とも家庭での養育が困難で特別なケアを必要とする児童の受入先になると考えています。